

日本キリスト教会 大阪北教会

2017年3月5日(日) 聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 ヨハネによる福音書17章1節～5節

1節 イエスはこれらのことを話してから、天を仰いで言われた。「父よ、時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すようになるために、子に栄光を与えてください。2節 あなたは子にすべての人を支配する権能をお与えになりました。そのために、子はあなたからゆだねられた人すべてに、永遠の命を与えることができますのです。3節 永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。4節 わたしは、行うようにとあなたが与えてくださった業を成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。5節 父よ、今、御前でわたしに栄光を与えてください。世界が造られる前に、わたしがみもとで持っていたあの栄光を。」

<説教>

『永遠の命とは、唯一の真の神様とイエス・キリストを知ることです』

◆教会の暦では3月1日から受難節・レントが始まっています。復活節前の6回の日曜日を除く40日間です。これは主イエス様御自身が伝道に立たれる前の40日間、断食をされて備えられた事に因んでいます。いずれの教会、教派もそれぞれの仕方でこの受難節を過ごします。今朝の日曜学校でも「各自そのことを覚えて過ごしましょう！」と話しました。そして、山上の説教の中でイエス様が「あがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」と言われた御言葉を心に刻んで過ごしましょうと話しました。特に「完全な者となりなさい」とのイエス様の御言葉を英語で覚えて過ごしましょうと話しました。 *Be perfect! Be perfect! Be perfect!*

◆さて今日の箇所を含む17章には『イエスの祈り』という小見出しが付いています。主イエス様の歩みは常に父なる神様と共なる歩みですが、十字架を目前に自覚されて、この道が神様の御心である事を、特に確認されたのが、主イエス様の祈りでありました。しかし皆さんもここを読んで、違和感を覚える表現があったと思います。3節の「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです」との表現です。これは「永遠の命」の定義と言ってもよい表現であります。これはイエス様のお祈りの御言葉としては違和感を覚えるのであります。言われている事は正にその通りなのですけれども、イエス様のお祈りとしては変です。

しかしその違和感の故に、私たちはかえってこの御言葉に引き寄せられると思うのです。そしてこの分厚い聖書の主題と言ったらいいでしょうか、ヨハネによる福音書が聖書全体の主題、つまり聖書が我々に伝えているものは何なのか、それが「永遠の命」だと云うところに、この福音書のテーマだけではなくて、聖書全体がわたしたちにもたらそうとしているものが「永遠の命」である事を覚えさせられるのではないのでしょうか。

◆最近、今年は宗教改革 500 周年の記念の年であるということもあって、しばしばこのヨハネによる福音書 3 章 16 節に言及いたします。ルターが「これこそ福音です！これこそ聖書がわたしたちに伝えようとしているものです」と言った箇所です。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命をえるためである。」先ほど、ルターの作詞・作曲の讃美歌 377 番をご一緒に歌いました。4 節にこうあります。「力と恵みを われに賜る 主の言葉こそは 進みに進まん わが命 わがすべて 取らば取れ 神の国は なおわれにあり」。なんと力強い信仰でしょう。私の全てが奪われても、神の国、神のご支配と恵みとは私の上にある。これが永遠の命です。この信仰で教会の再起、刷新が起ったのです。

◆377 番の 4 節の下の所に、聖書の箇所が 3 箇所記されています。「詩 46:2-4, ヨハ 16:33, ローマ 8:35-39」。これらは、この讃美歌の歌詞 1 番・2 番・3 番の素になった御言葉です。詩 46:2-4 は「神はわが避けどころ…、」あの詩篇ですね。そしてヨハ 16:33 は、今日の箇所の直前にある主イエス様の力強い御言葉です。「あなたがたは世では苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」ローマ 8:35-39 は、私の特愛の御言葉として折に触れ紹介もし、読むことの多かった御言葉であります。38 節から読みます。「わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高いところにいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛からわたしたちを引き放すことはできないのです。」これが使徒パウロによる「永遠の命」の解説と言ってよいでしょう。この世の何ものも主キリスト・イエスによって示された神の愛から私達を引き離すことは永遠にできないのですとパウロは言い放っています。

◆このヨハネによる福音書は大体紀元 100 年頃に書かれたものとされています。これに対して、ローマの信徒への手紙は 50 年代のもので、ローマの信徒への手紙は、皆さんもよく御存知のように、キリスト教会最初の世界的伝道者と言ってもよい使徒パウロが、当時の世界の中心、ローマの教会へ送った手紙ですね。これは紀元 50 年代のこ

とです。ですからヨハネの福音書はパウロの手紙よりも数十年後にできたものですね。ヨハネ福音書の著者がローマの信徒への手紙をしっていたかどうかはともかくとして、「永遠の命とは、唯一の真の神を知り、イエス・キリストを知ることである」こと、そしてそれは、主キリスト・イエスにおける神の愛を知ることなのです。そしてこの愛から私たちを引き離すことが出来るようなものは何にもありません。こういうふうにパウロは言い放っているのです。これが聖書の証しの核心です。

◆それで今週土曜日、3月11日は、東日本大震災から6年目の記念非になります。この震災で亡くなった人1万5千894人。行方不明者は2千5百61名。これだけ合わせても1万8千456名です。行方不明者の大方は津波で流されたと思われる。この大震災で小学生の子供二人を亡くしたご夫婦の事が報じられていました。震災後は何をする元気もなくし座り込んでしまったのですが、遺品の中に、子供が何かの機会に書いたものがあって、そこに「おとうさん、がんばって」という言葉を見つけ、やる気を取り戻したという事でした。その後、二人の子供を与えられたそうです。そのようなことで、わたしたちのこの人生、いつ、何が起こるか知れない。そういう中でわたしたちは生きて行くわけでありませぬ。

◆皆さんは旧約聖書のヨブ記をご存じですね。この人は大富豪でした。この人は神様の前に非の打ちどころのない人でした。7人の息子と3人の娘がいました。その彼に試練が訪れます。隣国が波状的に襲来して全財産を奪って行きます。そして、10人の子供たちは、竜巻で家の下敷きになり皆死にます。そしてヨブ自身は、頭のとっぺんから足の裏までひどい皮膚病におかされます。これを見かねた妻が「神を呪って死ぬ方がましでしょう」と言います。するとヨブは「わたしたちは、神様から幸福を頂いたのだから、不幸をもいただくのではないか」と言い。「彼は唇をもって、罪を犯す事はなかった」と記されています。これが「ヨブの忍耐」と言われるものです。

◆そのようなことでありまして、わたしたちもある日突然、試練の淵に落とされることがあります。しかし何が起きても、「主キリスト・イエスによって示された神の愛からわたしたちを引き離すものはなにもありません。」これがパウロの信仰告白であります。ですから、「永遠の命」の恵みは、わたしたちが苦しみに会わない、ひどい目に合うことではないという事ではなく、そういうご利益的な恵みではありません。ヨブのようなケースはそう多くはありませんが、そのような目にあっても動じない信仰があります。それが分厚いこの聖書の核心にあるメッセージでないでしょうか。

◆既に読んできたこの福音書の 11 章にマルタ・マリア・ラザロ姉弟の話が出ています。11 章 25 節で主イエス様はこう言われます。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない」と言われ、既に死んで墓に葬られたラザロを甦らされたのです。正にイエス様は奇跡の主であり給うのです。このイエス様の御言葉と御行為を私たちも信じています。これは、私達自身のことでもあるし、自分の兄弟、家族、愛する者、いろいろな関わりの中で生きている全ての人においても、万人においても真実です。キリストにおける神の愛からわたしたちを引き離すことはできないのです。この感謝すべき信仰に生きる私たちは、万人をこの胸中に抱いているのです。私の救いは万人の救いを内包するのです。

◆ルカ福音書 19 章の「ザアカイ物語」は私の特愛の物語です。“ザアカイ”は“ゼカリヤ”(ヤハウエ覚え給う)の砕けた表現です。誰一人神様から忘れ去られた存在はないということです。全ての人、一人一人が神様に覚えられているのです。讚美歌 484 は聖書が何を語っているかということを実にみごとに捉えている歌だと思えます。皆様お手許の讚美歌を開いて下さい。元々は英語の歌ですが、こういう歌詞です。<イエス様は私を愛して下さいます。その事を私は知っています。その事が、聖書がわたしに告げていることです。>正に今日の箇所とも合わせて、真の神様が遣わして下さいましたイエス様を知ること、これが永遠の命です。祝福です。救いです。これが今日の箇所を語ることでもあるし、聖書全体の核にある不思議ではないでしょうか。だからわたしたちもそのことを新たに覚える。愛され、覚えられているのですから、そしてこれが神様の御計画であり、私たちはこの命に与っているのですから、本当にこのことを感謝しつつ、そしてこのことを賜った神様は完全であられるのですから、御独り子イエス様をさえ賜った神様は、その御愛において完全であられるのですから、私達もその完全に日々与かりつつ、このイエス様の御言葉を心に刻んでこれからの日々を歩みたいと思えます。

◆お祈りいたします。愛に満ち給う主イエス・キリストの父なる神様。

私たちは、今日まで、ただあなたの御恵み、御愛、御赦しの故に、生かされて、生かされて、今あり、これからも永久に、御愛の中に置かれていることを覚え、心から感謝いたします。どうか、日々困難を覚え、行き詰まりの中にある人々が、御愛の御手に捉えられて、歩むことができますように、そのことをひたすら願いつつ、これからの日々を歩ませてください。この祈りイエス様の御名を通しみ前にお捧げいたします。アーメン。